



RACE REPORT

全日本ロードレース第7戦 岡山国際

負傷中ながらも、追いつきのレースで7位と健闘

■コース全長:3,703m ■総客数:9,500人

10/8(土) 予選 想定タイムには届かなかったものの、エンジン・車体の方向性を見出す



9月下旬の事前テストで、左足のくるぶしに亀裂骨折の怪我を負ってしまった野左根選手。負傷の影響を残したまま、今回のレースウィークを迎えた。予選日の朝、発電系の装置にトラブルがおり、タイヤウォーマーが使えないという事態が発生したが、直ぐに原因を突き止め、なんとかトラブルは解消。予選中の課題となっていたマシンの調整を行うため、途中何度かピットインし、さらにセッティングを詰めていく。野左根選手もチームクルーも、懸命に知恵を絞ります...そんな中で、ベストタイムは1分35秒395をマーク。公式練習日より良いタイムを刻むことが出来たが、トップとのタイム差は3秒程度あり、決勝レースは11番グリッドからのスタートとなった。

Pos. No.	Machine	Rider	Team	Time	
1	2	MD600	山口 辰也	TOHO Racing	R 1'32.203
11	31	YZF-R6	野左根 航汰	ウェビックチームノリックヤマハ	1'35.395

10/9(日) 決勝 左くるぶしの負傷を押して臨んだレースで、4人抜きの7位フィニッシュと健闘!

ウィークの中で、最も早朝の気温が低くなった決勝日。朝には薄っすらと霧が出ていたが、時を待たずに快晴となった。ウォーミングアップランでは、1分36秒375をマーク。途中、決勝レース用のタイヤの皮むきなど、最終調整を行った。そして、いよいよ決勝レースの開始時刻となり、グリッドの緊張は最高潮に達する! 野左根選手は上手くスタートダッシュを決め、一挙に3台をパス。レース中は、終始8位のテルル・ハニービーレーシングの野田弘樹選手と接戦を繰り広げたが、最終的には前に出ることができ、7位でチェッカーを受けた。次戦の鈴鹿は、ついに2011年の最終戦となる。気合を入れ、シリーズの締めくりに相応しい走りで見事な表彰台を目指します!



RESULT

決勝レース公式結果

Pos. No.	Rider	Team	Laps	
1	71	小山 知良	C.I.P.TNU	15
2	2	山口 辰也	TOHO Racing	15
3	15	関口 太郎	Team TARO PLUS ONE	15
4	3	生形 秀之	エスパルスドリームレーシング	15
5	51	高橋 英倫	松戸フラッシュ&PLUSONE	15
7	31	野左根航汰	ウェビックチームノリックヤマハ	15

ポイントランキング

Pos. No.	Rider	Pts.	TRM	TRM	SUGO	AP	OIC	SC
1	15	関口 太郎	108	22	22	22	20	
2	634	中上 貴品	100	25	25	25		
3	3	生形 秀之	85	18	18	13	18	
4	51	高橋 英倫	75	15	13	13	18	16
5	77	福塚 誠	75	16	16	12	16	15
7	31	野左根 航汰	73	14	15	15	15	14

野左根選手コメント



予選では痛めた足のせいでマシンの上で上手く踏ん張れず、タイムを伸ばすことができませんでした。

決勝ではスタートダッシュがうまくいき、予選よりも順位を上げることができました。しかし、トップグループとの差を埋めることができず、最終的には7位で、悔しさが残る結果となりました。最終戦の鈴鹿までに、自分に足りないものは何なのか見つめ、良い結果が残せるように頑張ります。(Webike Team Norick YAMAHA 野左根 航汰)

阿部監督より「レースを終えて」

9月30日から10月2日の間、MotoGP もてぎ大会へ行ってきました。私はヤマハのGP参戦50周年記念でのデモ走行があり、典史が乗ったYZR500(95年式)を2回走らせてもらいました。YZR500の強烈な加速と2ストローケレーサーの軽快さに酔いしれ、また典史に触れることが出来たようで感無量でした。機会を作ってくれたヤマハに感謝です。

航汰もGP観戦に来ました。9月21日の事前テストで左足のくるぶしに亀裂骨折を負った航汰ですが、歩くのも非常に困難な状態ながら、世界のトップライダーの走りを間近に見て、その走りや、ピットイン寸前までレーシングスピードで来る、全日本では見られない光景を目の当たりにし、世界の厳しさを感じたと思います。これからの走りに活かされたいと思います。痛い足を引きずりながらパドックとコースサイドを歩き、J・ロレンソやM・マルケスのピットを見学させてもらい、世界を身近に感じて「早く、GPIに行きたい」という思いを募らせた、有意義な観戦でした。

岡山大会では、航汰はやはり、まだまだ痛い怪我を押しての走行で、想定していたタイムには程遠いものでした。決勝のスタートは悪くはなく、9番手で帰ってきました。このころ、航汰なりにアウトラップ(走りだし)は良くなってきたのですが、前車とは0.5秒程度遅れたの1周目通過でした。しかし3周目に自己ベストを更新し、5周目には1分34秒台へ入れることが出来ましたが、前車4台は33秒台で走り続けており7位でのゴールでした。

ゴール後、怪我をしている左足は腫れあがっていました。怪我の影響が大きい中、痛みを押して航汰は良く頑張りました。今月末のMFJグランプリ鈴鹿までに足を完治させ、期待に応える走りを見せてくれるものと思います。



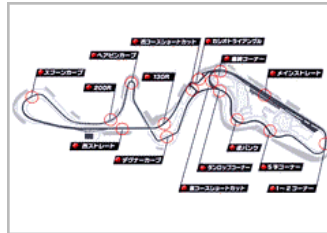
2011 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ最終戦となる「第43回MFJグランプリ スーパーバイクレースin鈴鹿」は、グランドスタンドも含め、全席自由席となっている。目の前でチームピット風景が見られたり、リーダータワーや大型ビジョンでレース展開を追えたりと、楽しみ満載！

また、レース終了後に開かれる、恒例のシーズンエンドパーティーでは、レーシングライダーユニット「R4」がライブを披露！

[→詳しくはこちら](#)

サーキット概要

コース長	5,821m
コース幅	10から16m
最大直線長	約900m (バックストレッチ)
開催クラス	JSB1000(2ヒート) ST600/J-GP2 J-GP3/GP-MONO
最寄駅	近鉄特急 白子駅



TOPICS

レーサーマシンと触れ合う機会には中々ないので、細部まで舐めるように眺めていました。すると、見慣れた音叉マークがシートカウルの先端にあることに気がつきました。とってもいい感じのところに、ちょこんと貼ってあって、ちょーカッコイイ！！

「さすが、ヤマハのマシンは隅々まで行き届いていますね」と、チームクルーに話しかけてみたところ、「それは元から貼ってあったわけではなくて、ライダーが貼ったのですよ」と。・・・なんと！！ いやいや御見それいたしました！

残念ながら走行中には見えないような大きさなので、気付かれない方も多いかと思いますが、ピット内で車両を見ていると、貼ってある方が断然、好印象なんです！ やっぱ、バイクがカッコいいと、ライダーとしても気合が入るってものですよ！

みんな、バイクが好きで乗っているんだなあ、としみじみ感じた瞬間でした。



》公式サイト情報

● Webike TeamNorick
YAMAHA

<http://norick.webike.net/>

● 野左根 航汰選手 プロ
フィール

<http://norick.webike.net/nozane-kohta/>

● 参戦マシン紹介

<http://norick.webike.net/machine/>

● 2011年レーススケジュール

<http://norick.webike.net/race-schedule/>